

平成24年度全国学力・学習状況調査〔抽出調査〕実施の概要

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 実施対象

文部科学省が調査対象として抽出した学校における県内国・公・私立学校の以下の学年の全児童生徒を対象とする。

小学校調査...小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校調査...中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

【国語A、算数・数学A】	【国語B、算数・数学B】
<u>主として「知識」に関する問題</u> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題	<u>主として「活用」に関する問題</u> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を中心とした問題

【理科】
<u>主として「知識」に関することと主として「活用」に関することを一体的に問う問題</u>

(2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を実施	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査期日

平成24年4月17日(火)

5 本県の公立小・中学校、特別支援学校の参加状況(4月17日実施校)

抽出調査校：全240校(抽出率約44.1%)(参加児童生徒数：12,336人)

小学校、特別支援学校小学部 131校(抽出率約36.2%)(参加児童数：4,730人)

中学校、特別支援学校中学部 109校(抽出率約59.9%)(参加生徒数：7,606人)

平成24年度 全国学力・学習状況調査結果 [抽出調査] の概要

本県の結果の状況（公立小・中学校、特別支援学校）

校 種	教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本 県	全 国	本 県	全 国
小学校	国 語	80.2～81.6	81.4～81.7	53.6～55.8	55.4～55.8
	算 数	70.9～72.8	73.1～73.5	56.0～58.2	58.7～59.1
	理 科	59.7～61.5	60.8～61.1	理科は「知識」と「活用」に関する ことを一体的に問う問題	
中学校	国 語	74.6～75.9	75.0～75.2	63.1～64.5	63.2～63.4
	数 学	61.5～63.5	62.0～62.3	50.2～52.5	49.2～49.5
	理 科	49.9～51.5	50.9～51.1	理科は「知識」と「活用」に関する ことを一体的に問う問題	

数値は、平均正答率の95%信頼区間（%）

信頼区間とは、95%の確率で、全員を対象とした調査（悉皆調査）の場合の平均正答率が含まれる範囲のこと

<参考> 平成22年度の調査 [抽出調査] 結果（公立小・中学校、特別支援学校）

校 種	教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本 県	全 国	本 県	全 国
小学校	国 語	82.0～83.5	83.2～83.5	75.6～77.5	77.7～78.0
	算 数	72.9～74.7	74.0～74.4	46.6～48.4	49.1～49.5
中学校	国 語	75.3～76.6	75.0～75.2	65.9～67.6	65.1～65.5
	数 学	65.3～67.4	64.4～64.8	44.3～46.7	43.1～43.5

理科に関する調査は平成24年度から開始

平成24年度 小学6年生・中学3年生の生活習慣等の調査(抽出調査)結果【経年比較をしている重点項目について】
 (全国学力・学習状況調査 質問紙調査項目 全86項目からの抜粋)

	調査項目	小学校				中学校				22年度・全国との比較等				
		平成22年度	差	平成24年度	差	平成22年度	差	平成24年度	差					
1	毎日朝食を摂取	全国	96.4		全国	96.1		全国	93.3		朝食の摂取率は、小・中ともに全国を上回り、好ましい状況である。			
		本県	96.5	+0.1	本県	96.8	+0.7	本県	96.0	+2.7		本県	95.4	+1.8
2	10時までに就寝(小学校)	全国	43.8		全国	46.0		全国	72.2		全国	73.3		小は改善傾向にあるものの、さらなる改善が必要である。中は微減だがほぼ好ましい状況である。
	12時までに就寝(中学校)	本県	44.4	+0.6	本県	45.8	-0.2	本県	79.7	+7.5	本県	79.3	+6.0	
3	朝7時前に起床	全国	77.1		全国	78.6		全国	67.1		全国	70.0		小・中とも好ましい状況である。小の就寝時刻の状況を考慮すると、睡眠時間の確保という面では課題が残る。
		本県	88.0	+10.9	本県	89.4	+10.8	本県	76.7	+9.6	本県	79.8	+9.8	
4	授業以外に1～2時間以上の学習をしている(月～金)	全国	58.2		全国	59.5		全国	66.2		全国	66.4		小・中とも授業以外の学習に意欲的に取り組む児童生徒が多い。小ではさらなる改善が必要である。
		本県	61.8	+3.6	本県	62.0	+2.5	本県	68.2	+2.0	本県	70.1	+3.7	
5	学校以外での30分以上の読書時間(月～金)	全国	35.9		全国	34.8		全国	27.3		全国	28.1		小・中とも全国の状況と同様に微減だが、学校外での児童生徒の生活時間を考慮すると、現実的な状況を示すものと判断できる。
		本県	34.1	-1.8	本県	33.4	-1.4	本県	28.3	+1.0	本県	27.5	-0.6	
6	学習塾(家庭教師を含む)で勉強している	全国	47.2		全国	47.3		全国	62.9		全国	63.5		学習塾に通う児童生徒の割合は、全国を大きく下回っている。また、経年変化もほとんどない状況である。
		本県	38.4	-8.8	本県	38.0	-9.3	本県	54.8	-8.1	本県	55.1	-8.4	
7	テレビやビデオ、DVDを2時間以上見ている	全国	67.6		全国	66.1		全国	63.6		全国	59.1		小・中とも全国の状況と同様に減少傾向を示しているが、さらなる改善が必要である。
		本県	69.7	+2.1	本県	69.1	+3.0	本県	63.4	-0.2	本県	59.6	+0.5	
8	テレビゲーム(コンピュータゲーム)を2時間以上使用する	全国	23.0		全国	24.1		全国	21.6		全国	22.3		全国の増加傾向に対し、小・中とも減少傾向にあり、好ましい状況である。
		本県	19.8	-3.2	本県	19.2	-4.9	本県	16.5	-5.1	本県	16.2	-6.1	
9	インターネットを2時間以上使用する	全国	7.5		全国	9.6		全国	18.1		全国	24.2		小・中とも全国を大きく下回ってはいるものの、経年変化は増加傾向にあり、改善が必要である。
		本県	5.1	-2.4	本県	6.4	-3.2	本県	12.0	-6.1	本県	15.6	-8.6	

小学校・国語

改善状況

漢字を正しく読んだり書いたりすることは、改善の状況が見られる。
問われている内容や自分の考えなどを、一定の条件（文字数、取り上げる事柄等）に沿って書くことは、改善傾向にある。

課題

A問題（知識）

話し手の意図を考えながら聞き、「詳細を理解するための質問」「自分の意見と比べるための質問」等、質問のねらいを明確にして尋ねること。
主語と述語、修飾と被修飾との関係などに気を付けながら、複数の文を一つの文に書き直すこと。

B問題（活用）

手紙の基本的な構成（「前文」「本文」「末文」「後付け」）を踏まえ、それらの順序や位置、内容などに気を付けながら依頼状や礼状などを書くこと。
目的に応じて、複数の資料から必要な情報を取り出し、それらを比較したり結び付けたりしながら読み、自分の考えをまとめること。

小学校・算数

改善状況

長さについての感覚をもとに面積の大きさの見当を付けることは、改善傾向にある。

課題

A問題（知識）

問題場面の数量の関係を図に表し理解すること。
三角形の底辺と高さの関係を理解すること。

B問題（活用）

複数の事象の大きさを比べる際、割合を用いたほうがよいことの理由を説明すること。
判断の理由を説明するために、情報を取捨選択して必要な数値を示し、筋道立てて表現すること。

中学校・国語

改善状況

比喩を手掛かりに内容を理解することは、改善傾向にある。

相手に分かりやすく伝わるように、内容や表現の仕方を工夫して書くことは、改善の状況が見られる。

課題

A問題（知識）

文章を読む目的を明確にもち、必要な情報を取捨選択しながら読み進めること。

話し言葉と書き言葉の違いを理解し、それぞれの言葉を時や場に応じて適切に使うこと。

B問題（活用）

与えられた情報を理解し、その情報を基に一定の条件（文字数、取り上げる事柄等）に沿って自分の意見を書くこと。

物語を読んで、場面の展開や表現の特徴を捉えること。

中学校・数学

改善状況

「反比例の表を完成すること」については、改善の状況が見られる。

「三角形の合同を利用して証明すること」については、改善の状況が見られる。

課題

A問題（知識）

2つの数量の関係が一次関数であるかどうかを判断すること。

資料を整理するための数学に関わる基本的な用語を理解すること。

B問題（活用）

文字式の計算の過程を振り返り、成り立つ事柄を見つけ、その理由を説明すること。

木の高さを求めるための方法を説明すること。

小学校・理科

定着が図られている内容

理科に関わる基本的な用語やその意味の定着が図られている。

課 題

観察・実験のデータを基に分析して、その理由を説明すること。

「変える条件（調べる条件）」と「変えない条件（同じにする条件）」に分けるなど、条件を意識しながら実験方法や内容を考えること。

観察・実験器具を適切に操作すること。

中学校・理科

定着が図られている内容

観察・実験に関する技能の定着が図られている。

課 題

科学的な知識を活用して実験方法を検討・改善し、他者の実験方法を説明すること。

観察・実験のデータを分析して明らかにしたことについて、その根拠に基づいた自分の考えを説明すること。

公式の意味を理解し、公式を用いる際に、単位を換算して計算すること。

1 経年比較をしている重点項目について

改善状況

授業以外の学習時間は、小・中学校ともに時間が増え、全国平均を2～3ポイント上回っている。

テレビゲーム(コンピュータゲーム)を2時間以上使用する割合は、小・中学校ともに減少し、全国平均を4～6ポイント下回っている。

課題

テレビやビデオ、DVDを2時間以上見ている割合は減少しているが、小・中学校ともに全国平均より高い。

インターネットを2時間以上使用する割合は、全国平均を下回るものの、小・中学校ともに増加している。

2 本県児童生徒の特徴的な姿について

優れていること

家族と学校での出来事について、よく話をしている。

年上や年下の友達と一緒に遊んだり勉強したりする機会が多い。

人の気持ちが分かり、人の役に立つ人間になりたいと思っている。

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている。

普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思っている。

課題

どの教科においても、解答時間が足りないと感じている。

小学生は、考えの理由やわけを書く問題において、最後まで書こうとすることが難しいと感じている。

中学生は、感想文や説明文を書くことが苦手だと感じている。